

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジ
ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ
んまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

祝

京都教区時報 第500号

2019年 司教年頭書簡を読む⑤

移住する権利

この項では、すべての人に「移住する権利」があることが語られます。厚生労働省が平成30年(2018年)10月末現在の外国人雇用についての届出状況をとりとまとめた結果によると、外国人労働者数は約146万人で、10年前に比べると約3倍の人数です。また、OECD(経済協力開発機構)の外国人移住者統計(2016年)によると、1年間の日本への移住者は約42万7千人で、OECD加盟35か国中では、ドイツ(約172万人)、米国(約118万3千人)、英国(45万4千人)に次いで、第4位となっています。なお、OECDによると日本への移住者には、「有効なビザを保有し90日以上在留予定の外国人」を計上しているとのこと。

このように、もうすでに、日本には多くの外国人が移住しているという現実があります。それは、日常生活を送っていて実感できることです。もちろん、各教会におい

ても実感できることです。私達はまず、この現実からスタートしましょう。イエスの言葉を思い出しましょう。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である」(マタイ6・33〜34)。

新しい出会いが多く恵みをもたらすこと、違いによってお互いが喜びのうちに変えられていくことを、私達は知っているはず。すべての移住者の方々にとって、

この地での信仰生活
が喜びと恵みに満ち
たものとなるよう
に、聖霊の導きのう
ちに歩みましょう。

(菅原友明)



7

2019



「教区時報」第500号

感謝

京都司教 パウロ大塚喜直

教区時報500号、おめでとうござい
ます。時報の発行は、古屋司教、田中司
教から引き継がれ、現在は毎月発行され
ています。これは、本当にすばらしいこ
とと思います。月刊を継続することは、
大変な努力を要します。京都司教とし
て、これまで編集に携わってこられた司
祭、信徒スタッフの皆さまに心から感謝
と敬意を表します。

時報は教区の広報紙ですが、現在の編
集方針は、新聞のように行事や出来事を
伝えるのではなく、京都教区が取り組ん
でいる『共同宣教司牧』を推進して、教
区民に福音宣教する共同体に成長するた
めの、情報を提供することにあります。

特に、司教の年頭書簡を取り上げ、巻頭
記事は書簡のテーマを多角的に読む材料
を提案しています。そして、福音宣教と
は何かを考え、教区の勉強会や講演の要
旨を紹介し、福音宣教を実践する仲間、
つまり教会共同体づくりのために、どの
ような取組みが行われているかを取材
し、研修・合宿などの参加者の体験談を
収録し、福音的な分かち合いの場を提供
しています。また、青年の活動の情報を
優先しています。

これからも時報が、京都教区の信仰共
同体の歩みの確かな道しるべとなり、福
音宣教のあかしとなるように、主イエ
ス・キリストが見守り、祝福してくださ
いますように祈ります。

表紙で綴る教区時報の歴史

大森 徹

第1号 1962年6月1日(昭和37年)
発行所 教区事務所/編集室 教区時
報係により、京都教区時報が創刊される。
1965年(昭和40年1月) 第32号ま
で毎月発行されたが、それ以降休刊も含
め第48号まで不定期に発行される。



第49号 1977年6月1日(昭和52年)
「再刊第1号」
発行所 カトリック京都司教区/編集
部 教理センターにより再刊され二か月
に一回の発行となる。



ああ、500号

村上 透磨

49号(1977年6月)再刊第一号を出してから42年、ずっと編集長の名を頂いて、続けてこられたのは、みなさんのおかげ、編集長がボーとしていたから、みんな頑張ってたのです。

平成元年、府立医大に入院。糖尿病との戦いが始まり、平成4年から瀧野神父と共に……。その後、私の入院が多くなり、いろんな神父も加わって頂き、今日に至っています(今、編集に携わっている神父が、それぞれご挨拶しますので、ここでは名前を紹介致しません)。そして、これは神父だけでは、無理な仕事です。

創刊は、古屋司教の意向により、昭和37年(1962年)6月1日発行。15年間の間に47号出されたことになりました。

その間は、岡神父、西野神父、アカソ神父などが、ほとんど一人の手で作られていたようです(それで休刊月、休刊年が多かったのです)。

ところが、田中司教の意向により、1977年6月1日に再刊となり、今日まで休むことなく続けてこられました。

事務所を教理センターに置き、そこへ私メンバーとして入るといふものでした。しかし、そこでは教理センターのスタッフの一人が、専従のような形で努力して下さいました。私たちは時間が来れば帰りますが、彼らは時に徹夜をして、時報の編集作業をして下さいました。

パソコンが使用される前はペン一本の手書きで……。情報収集も電話か手紙依頼、出向くこともありました。今のようインターネットは使えませんでした。やがてこの役割は、教区事務所の方にになり、今に至っています。教区事務所の役割について一言申し上げておかねばなりません。経費のことから発送作業まで一切を教区事務所が責任を持って下さっています。

さて、私には編集方針があります。それは再刊号での田中司教の「内部対話を願って」という言葉にあります。「上」と「下」のつながり、「縦」と「横」の

第50号 1977年8月1日(昭和52年)表紙タイトルロゴが変更になった。



第77号 1982年2月1日(昭和57年)発行所 京都カトリック教理センター/編集部 教理センターと発行所が変更になった。



第95号 1985年1月1日(昭和60年)表紙タイトルロゴが変更になり、月一回の月刊誌となる。



つながり、そして「対話」です。「内部対話」が充実するには、外部にも開かねばなりません。この再刊第1号の田中司教の意向を基本方針として貫いていきます。でも、継続させるにはテーマの選比方、記事の書き方に関係してきます。テーマについては編集会議で話し合います。皆の頭の中は何時も「福音宣教共同体の在り方を報せること」別の言葉でいえば、「対話する教会の手段としての時報」ということだと思います。

これからも言葉を使って「コト」を、出来事の「コト」を描いて、「コト」を伝えていけたらと願っています。出来るだけ多くの人が「取って読んでくださいますように」、読めば福音の音が少し分かるような、読まなければ損をするような、福音の「コト」を伝える「京都教区時報」になればと願っています。

第500号発行によせて

1992年4月より、それまで「カト
瀧野正三郎

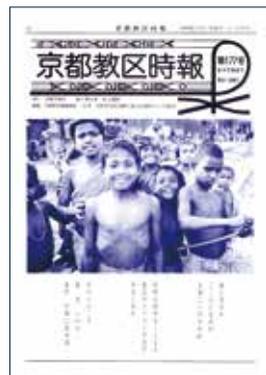
リックきょうと福音センター」が担当していた編集を、「京都教区時報編集室」が引き継ぐことになり、私も編集員に任命されました。

その頃は今と違って、レイアウトのために、原稿の枠が決まっていた、それに合わせて字数の調整も必要でしたし、なにより、初めてのことであり、とても苦勞しました。

引き継いだ当初は、なれないこともあり、隔月の発行となりましたが、当時教区長であった田中司教より、毎月発行するように、しかも、お知らせで、教区スケジュールを1日から掲載しているの、月の初めの日曜日に配布していたのでは、意味がないので、前の月の最後の日曜日には配布できるようにという指示がありました。

印刷所へ入稿し、校正のための日数も必要なため、原稿の締め切りも早める必要が出て来ました。一番大変なのは、入稿に間に合わせるために、原稿を早く集め、字数の調整をし、レイアウトすることでした。私も、レイアウトの責任を任

第177号 1992年5月1日(平成4年)発行 京都司教区/編集 京都教区時報編集室となった。



第227号 1996年10月1日(平成8年)表紙のタイトルロゴが現在のものとなる。



第266号 2000年1月1日(平成12年)司教年頭書簡(司教教書)の掲載が始まる。



された期間があり、とても苦勞したことを思い出します。

今も、毎月の教区時報編集会議に参加しています。これからも、教区時報が継続して発行できることを願っています。

教区時報は宣教活動の一つ

カマチヨ・アントニオ

2年前、京都教区広報委員会 担当司祭に任命され、「京都教区時報」の編集員となりました。

その時から、教区時報に掲載するための、色々な原稿、お知らせ、教区スケジュールなどを話し合う、毎月の教区時報編集会議に参加しています。

教区時報はある意味、宣教活動の一つです。そして、第500号の発行となりました。どの方まで届いていますか？確かに神の言葉と恵みが、この教区時報によって届いていると思います。

これからも皆さまに読んで頂ければと思います。そして、他の方にも渡してください。情報を受けるだけでなく、神

の恵みも頂けます。

人々をつなぐさやかなるし

菅原 友明

ご高齢やご病気などで、あるいは、何らかの事情により長らくミサに出ておられない方から、時折目にする教区時報が励みになっている、というお声をいただくことがあります。今後教区時報が人々をつなぐさやかなるしとなればと思っております。教会にいらっしやれない方にも時報をお渡しいただければ幸いです。

いち読者として

平竹 恵

2013年の3月号から、携わらせていただいています。丸6年経ちました。皆さまのお手元に届く前に、初稿を読ませていただくのですが、私たちはその作業を「読み合わせ」と呼んでいます。文字通り、メンバー3人交替で音読しながら

第374号 2009年1月1日 (平成21年) 写真掲載がカラーになる。



第375号 2009年2月1日 巻頭言が司教年頭書簡のテーマにもとづく。



第378号 2009年5月1日 オールカラーになる。



ら、文中の「てにをは」・誤字脱字をはじめ、内容が通じやすいように句読点を見直したりします。

ここでは、いち読者として、より皆さまに近い立場で文章に向かうことを心がけています。ときには、難解な文章に頭をかかえることもありませんが、聖書や翻訳サイトと首っ引きで取り組むことは、とても勉強になりますし、そんな役得を楽しんで担当させていただいています。

発送作業も教区事務所で行います。時報が刷り上がって届いたときのインクの匂いにワクワクします。

さあ、数えるぞ…みたいな。真新しい時報を手に取り、数えて、折って、詰めて、すべて手作業で送らせていただいています。

ひと月かけて出来上がった時報の旅立ち、いわば時報担当者から皆さまへのお手紙をお送りする、月イチのイベントのように感じています。

500号という節目に寄せて、少しご紹介させていただきました。

編集会議

林田榮太郎

編集会議は、担当メンバーからそれぞれの考えや意見が活発に出され、喧々諤々となることもあります。私は、一般信者の視点から意見を述べさせていただいています。会議を通じ知識と経験を深めることができ、深く感謝いたしております。

顧みますと、編集のお手伝いをさせていただきはや17年が経過しました。特に強く印象に残ることは、「こんにちはシスター」シリーズの取材で、世界中の困難と闘っておられる方々のための、シスター達の献身的な活動には、全く頭が下がりがり、尊敬と畏敬の念を禁じえませんでした。

今後も、時報に神様のお力添えをお願いいたします。

第394号 2010年9月1日(平成22年)発行・編集 京都教区広報委員会と



第411号 2012年2月1日(平成24年)巻頭言が、時報担当司祭による、年頭書簡の解説になる。



第499号 2019年6月1日(令和元年)に至る。



読者が分かち合う教区時報

奥埜さと子

私は信仰教育委員会のスタッフとして、委員会の3つの大きな活動、「小学生侍者合宿」「教会学校研修会」「青年のための黙想会」の報告や、参加者の感想文を教区時報に掲載させていただいています。そのことは、行事の内容や委員会の取り組みについて、参加者と多くの読者が分かち合う、よい機会になっています。また、青年活動や中高生の行事についても、原稿の依頼や収集に関わっていますが、このような若い世代の方たちの記事掲載し、読者の方々と分かち合うことは、教会の将来についてみんなで考えることでもあります。

そして「読み合わせ」のお手伝いも、させて頂いています。

これからも、教区時報が自由な発想で、教区内外のたてよこの関係をつなぐ役割を、果たしていきますよう、微力ながらお手伝いさせていただきますと思います。

【お知らせ】

※2019年より、司教年頭書簡外国語版が、教区時報別冊版として発行。

英語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語・ベトナム語・韓国語を、京都教区内の教会に、希望部数を配布しています。

※京都教区のホームページに教区時報のバックナンバーを掲載しています。

URL: www.kyoto.catholic.jp または、「京都教区」と検索してください。

【お願い】

※京都教区時報第8号が欠番となっています。京都教区にも保存版がなく、バックナンバー資料として探しています。所蔵されている方がおられましたらご連絡ください。大切にコピーさせていただきます、お返しさせていただきます。

京都教区広報委員会
担当司祭

編集長

村上 透磨

瀧野正三郎

カマチョ・アントニオ

連絡先 京都教区本部事務局(時報担当)

教区職員

大森 徹

TEL 075(211)3025

ボランティア

菅原 友明

FAX 075(211)3041

林田榮太郎

E-mail honbu@kyoto.catholic.jp

奥埜さと子



英語版・スペイン語版・タガログ語版・ベトナム語版

大塚司教の

7月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 2日⊕ 13:30 福音宣教企画室
- 4日⊕ 10:00 中央協 常任司教委員会
- 5日⊕ 9:00 東京カトリック神学院
常任司教委員会
- 7日⊕ 11:00 丹波教会・園部聖堂ミサ
- 8日⊕-12日⊕ 2019年度 臨時司教総会
(中央協)
- 19日⊕ 11:00 中央協議会 会議
- 21日⊕ 三重南部ブロック
国際ファミリーデー
(セントヨゼフ学園)

- 22日⊕ 15:00 司教顧問会
- 23日⊕ 13:00 両神学校 司教・養成者の集い
(中央協議会)
- 24日⊕ 10:30 司祭・司牧者集会
(河原町教会)
- 25日⊕ 19:00 奈良聖書講座
(大和八木教会)
- 26日⊕ 10:00 奈良聖書講座(奈良教会)
- 28日⊕ 10:00 草津教会ミサ
福者ユスト高山右近 関連会議
(大阪梅田サクラファミリア)
- 31日⊕ 第13回 京都教区カトリック学校
教職員修養会(河原町教会)

7月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 ⊕⊕

聖書講座

旅する神の民 私たち 皆 寄留人
—共に住み、共に歩む—

日 時：11日⊕ 10:30

テーマ：アブラハムの旅

(神が示された地へ)

講 師：柳田 敏洋(イエズス会)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：17日⊕ 10:30

講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

諸 団 体

望洋庵 / Tel.075(366)8337

青年のための聖書講座

日 時：4日⊕ 19:15~21:00

指 導：菅原 友明師・大塚 乾隆師

キリスト教講座①

日 時：18日⊕ 19:15~21:00

指 導：大塚 乾隆師

対 象：これから洗礼を希望する青年

キリスト教講座②

日 時：17日⊕ 19:15~21:00

指 導：大塚 乾隆師

対 象：青年

京都カトリック混声合唱団

練 習：14日⊕ 14:00 / 27日⊕ 18:00 ミサ奉仕後
カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：4日⊕ / 11日⊕ / 25日⊕ 10:00
カトリック会館6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA
毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「自分を深く知るために」

出演は Sr. 小野 恭世(イエズス孝女会)

ラジオ(KBS京都) ⊕~⊕ 朝5:55

⊕ 朝5:15

7月のテーマ「わたしの今の役割」

8月のお知らせ

奈良ブロック

平和旬間行事

「パネル・ディスカッションとミサ」

日 時：8月11日⊕ 13:30

場 所：登美が丘教会

テーマ：共に生きる

~外国人信徒の声に耳を傾ける

※ 9月号の原稿締切り日は7月10日⊕です。